

FD活動報告集

第12号

目 次

1. 学長挨拶	02
2. 教育支援総合センター長挨拶	03
3. 2019 年度 FD 活動表	04
4. FD 活動取り組み	
(1) 第 1 回 FD/SD 研修会「初任者研修会」	05
(2) 第 2 回 FD/SD 研修会「Microsoft Teams・Forms 講習会」	05
(3) 第 3 回 FD/SD 研修会「特色のある授業報告」	06
(4) 授業評価中間アンケート (Web 入力)	06
5. 学生 FD 活動	
(1) 翔タイム (芸術学科、教育学科、全学科)	07
(2) 学生 FD 報告会	07
(3) 学生 FD サミット	07
6. 学生 FD サミット 2019 夏 with 学生 FD 会議	08
7. 委員よりひと言	10
8. 編集後記	10
9. FD 支援委員会	11

I. 学長挨拶

FD 活動報告集第 12 号の刊行によせて

北翔大学・北翔大学短期大学
学長 山谷 敬三郎

令和元年 8 月 27 日、28 日の両日、本学を会場に「学生 FD サミット 2019 夏 with 学生 FD 会議」が開催されました。全国から国公立の大学あわせて 46 校から、学生、教職員、その他を含めて、236 名の方が参加して、「大学はつまらない？」をテーマに協議が展開されました。活動の詳細は、この報告集にも紹介されています。全国から学生が集い、それぞれの大学の取組が紹介され、学生のみならず、参加した大学の FD 活動に資する大会になったと思っています。この大きな大会の他、本学の学生 FD の活動は、北翔アンビエイトが中心となり、4 年制大学の教育文化学部芸術学科 1 年生を対象に、「こんな学生生活は嫌だ」、教育学科の 1 年生対象に、「こんな先生になりたい！こんな先生は嫌だ！」全学全学年対象では、「上下関係って いる？いない？」をテーマ話し合いをするなど大学生活を充実したものにする地道な取り組みが継続されています。



さて、大学の教員には四つの役割があると言われています。それは、教育、研究、学務分掌、地域貢献です。後者の二つは、それぞれの教員の経歴や専門性などから、すべての教員に同じような役割を期待することは難しいのですが、教育と研究はすべての教員にとって最も基本的な役割であり、義務でもあります。中でも、教育は大学が組織として、学生一人ひとりが社会で活躍できるようにディプロマポリシーに基づき、その能力や資質を育てる責任ある営みであります。しかし、この教育については、他の三つの役割と比べて、その成果の可視化が困難なことから、認証評価ではこのことが最重点課題として多くの大学の実践的な取り組みが求められているところです。そうした中で、学生の授業評価を通して授業改善を図る FD 活動を教員の教育者としての資質向上の営みと関連させる活動が注目されています。

一昨年 11 月 26 日に、中央教育審議会が「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」を答申しました。その中で、各大学の教育の質の保証の具体的方策として、「学生個人の学修成果の把握」「学修時間の確保と把握」「学生による授業評価」などが示され、FD や SD の高度化などが盛り込まれています。今後、具体的な施策が提言されることに注目する必要があります。もちろん、平成 29 年 4 月より施行された「学校教育法施行規則の一部を改正する省令の公布について」により、各大学では、3 つのポリシーに基づく大学教育の質的転換や高大接続改革等を進めていかなければなりません。

こうした中で、各大学は、自校の教育活動の内部質保証に結び付く FD/SD 活動を充実することが求められています。本報告書は、本学における FD 活動の 1 年間の成果をまとめたものです。こうした地道で、しかも継続した FD 活動が授業改善や教師の教育力の向上、ひいては学生の資質・能力の向上に貢献するものと考えています。北翔アンビエイトの学生諸君の活動に敬意を表して、報告集発刊の挨拶といたします。

2. 教育支援総合センター長

2019 年度報告集 第 12 号刊行に寄せて

教育支援総合センター長 佐々木 浩子

本報告集は 2019 年度に実施した FD/SD 活動をまとめたものとなっております。皆様にご高覧いただき、ご示唆を賜れば幸いです。

FD とは、皆様ご存知のとおり、ファカルティ・ディベロップメント (Faculty Development; 以下 F D) の略語です。F D が大学改革の中で取り上げられるようになったのは、1998 (平成 10) 年 10 月の大学審議会答申からです。この答申の中で、「各大学は、個々の教員の教育内容・方法の改善のため、全学的にあるいは学部・学科全体で、それぞれの大学等の理念・目標や教育内容・方法についての組織的な研究・研修(ファカルティ・ディベロップメント)の実施に努めるものとする旨を大学設置基準において明確にすることが必要である。なお、個々の授業の質の向上を図るに当たっては、シラバスの充実等の取組が重要である。」と述べられており、ここから F D の努力義務化が始まりました。

その後、2005 (平成 17) 年 1 月の中央教育審議会答申において、スタッフ・ディベロップメント (Staff Development; 以下 S D) についても明記され、2007 (平成 19) 年 7 月には F D の義務化を含む大学設置基準の一部を改正する省令が公布されて、翌 2008 (平成 20) 年 4 月より施行されました。つまり、大学改革としての F D は、2020 (令和 2) 年において義務化後 12 年を経過しています。

その後、2005 (平成 17) 年 1 月の中央教育審議会答申において、スタッフ・ディベロップメント (Staff Development; 以下 S D) についても明記され、2007 (平成 19) 年 7 月には F D の義務化を含む大学設置基準の一部を改正する省令が公布されて、翌 2008 (平成 20) 年 4 月より施行されました。つまり、大学改革としての F D は、2020 (令和 2) 年において義務化後 12 年を経過しています。

その間に、2017 (平成 29) 年には S D が義務化され、2018 (平成 30) 年 11 月には中央教育審議会答申「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」が公表され、大学が行う「教育の質の保証」の具体的な方策として、F D 及び S D の高度化が示されています。また、その答申では、2040 年頃の社会変化の方向として、「S D G s が目指す社会」、「Society5.0、第 4 次産業革命が目指す社会」などについても述べられています。特に Society5.0 については、IoT、ロボット、人口知能 (AI)、ビッグデータなどの先端技術を産業や社会生活に取り入れ、経済発展と社会課題の解決を両立していくことが目指されております。今後、本学の F D / S D 活動もそのような社会的な変化を踏まえて、教職員が一層組織的に取り組んでいくことが望まれます。

さらに、教職員ばかりではなく、本学では学生も自ら教育改善について考える学生 F D 活動を行っています。2019 年度には学生 F D サミット with 学生 F D 会議を本学で開催し、日頃学生 F D 活動を行っている学生及び教職員のみなさまを全国からお迎えいたしました。詳しくは学生 F D 活動の報告をご覧くださいと思います。

本報告集の刊行にあたり、大学改革の社会的背景及び本学の F D / S D 活動を振り返るとともに、関係教職員及び学生の皆様に感謝を申し上げます。



3. 2019 年度 FD 活動表

日付	各委員会	学内活動（研修会他）	学外活動（研修会他）
4月1日(月)	第1回FD支援委員会		
4月4日(木)		翔タイム！（北翔アンビエント）：芸術学科1年	
4月23日(火)	第2回FD支援委員会		
4月26日(金)		翔タイム！（北翔アンビエント）：教育学科1年	
5月7日～6月8日		前学期授業コンサルタント募集	
5月7日～6月14日		前学期授業コンサルテーション募集	
5月25日(土)			“つばさ”FD協議会(山形大)
5月28日(火)	第3回FD支援委員会		
6月6日(木)		第1回FD/SD研修会「初任者研修会」	
6月18日(火)			北海道FD・SD協議会総会(北海道大学)
6月25日(火)	第4回FD支援委員会		
6月上旬		前学期授業コンサルタント研修会	
6月中旬～下旬		前学期授業コンサルテーション実施予定	
6月中旬～7月下旬		前学期授業改善アンケート調査	
7月23日(火)	第5回FD支援委員会		
7月22日～8月30日		授業コンサルタント募集	
8月1日～11月15日		後学期授業コンサルテーション募集	
8月27日(火),28日(水)		学生FDサミット2019夏with学生FD会議(北翔大学／北翔大学短期大学部)	
9月2日(月)～4日(水)			FD合宿セミナー(山形 協同の杜JA研修所)
9月6日(金)			大学間連携SD研修会(山形大学)
9月13日(金)			FDワークショップ(山形大学)
9月24日(火)	第6回FD支援委員会		
9月上旬		授業コンサルタント研修会	
10月29日(火)	第7回FD支援委員会		
11月26日(火)	第8回FD支援委員会		
11月中旬		後学期授業コンサルテーション実施予定	
11月下旬		第2回FD/SD研修会	
12月17日(火)	第9回FD支援委員会		
12月中旬		学生FD活動報告会(北翔アンビエント)	
1月28日(火)	第10回FD支援委員会		
12月中旬～1月下旬		後学期授業改善アンケート調査	
2月25日(火)	第11回FD支援委員会		
2月15日(土)			“つばさ”FD協議会(山形大学)
2月27日(木),28日(金)			学生FDサミット2020春in広島経済大学(中止)
3月10日(火)		第3回FD/SD研修会「特色のある授業について」 (中止)	
3月17日(火)	第12回FD支援委員会		
3月下旬		FD活動報告第12号発行予定／学生FD活動報告書Vol8発行予定	

* 日程は、予定のため変更する場合があります。また記載以外の研修会等を実施、参加する場合があります。

4. FD 活動取り組み

(1) 第1回 FD/SD 研修会「初任者研修会」

生涯スポーツ学部 スポーツ教育学科 坂谷 充



標題の研修会が6月6日(木)に実施されました。佐々木副学長(教育支援総合センター長)より「本学の沿革と大学を取り巻く状況」、FD支援委員会 松澤先生より「FD 支援活動の概要及び授業評価」、学習支援委員会 西出先生より「教務の手引きおよび出講案内」について講話がありました。本研集会を通して北翔大学の歴史と建学の精神、組織や取り組みなど大学の全体像、また教務の基本的なシステムやFD支援オフィスの業務などを知ることができました。大学により業務体系が異なるため、今回の講習を受講することで本学への理解を深め、スムーズに業務に取り組むことができました。最後になりましたが、講師の先生方にお礼をお伝えさせていただきます。ありがとうございました。

教育文化学部 教育学科 磯貝 隆之



FD、SD 研修受講の機会を与えていただきましてありがとうございます。今日的な課題に対応した最先端の研修内容に興味津々参加させていただいていますが、寄る年波にはなかなか逆らえず、研修内容が頭の中に浸透していかないのも事実です。しかし、教員はその職責を全うするために絶えず研究と修養に励まなくてはなりません。すべては学生一人一人のよりよい人生の基盤づくりに向け、微力ながら研修成果を少しでも活かしながら頑張っていきたいと思います。

(2) 第2回 FD/SD 研修会「Microsoft Teams・Forms 講習会」

生涯スポーツ学部 スポーツ教育学科 渡部 峻

講習会に参加して、教育活動や研究活動がより効率的になると感じました。チャットでのやりとりやファイルの共有、プロジェクト管理などの方法についてレクチャーいただきました。覚えてしまえばさほど難しくなく、簡単に使用できそうでした。学生とのやりとりや情報の共有などこれまではLINEなどプライベートでも用いるツールを使用しなければならなかったことも改善されそうです。今後、積極的に活用していきます

短期大学部 こども学科 荒川 巖

松澤衛先生を講師に行われた第1回研修に参加した。指示通り数回の操作でTeamsにログインし、簡単にグループをつくることができた。グループ内では1対1、1対多での会話を特別な操作なしにすることができた。

またTeamsはWordやExcelなどをダイレクトに共有できるため、授業ごとにグループで、連絡や資料の共有等が可能となる。本研修で、利用法とともに、世界ではこうした新しいコミュニケーションによって仕事や研究が進んでいることを感じた。

図書館 生石 佐智子

図書館には、複数名の学生スタッフが働いています。学生スタッフとのコミュニケーションに使えればと思い、参加しました。機能について、全然知らなかったのが、ついて行けるか心配でしたが、松澤先生の楽しい説明で何とか理解する事ができました。Teamsのチームでチャットのように話ができる機能は魅力に感じます。Formsの機能は、ガイダンスの後に実施しているアンケートなどにも利用できそうな気がしました。

教育支援総合センター 学習支援オフィス 新谷 佳子

11/26、FD/SD 研修会が行われました。松澤先生を講師に、要点をいくつか短時間の実演により、基本的なPC操作をマスターすることができました。現在、課内の学生・非常勤窓口対応、会議や業務内容の共有にTeamsを利用しています。今まで口頭や紙で共有していた情報が、ペーパーレスで正確な情報を複数人に即時共有できるようになり、業務に役立っています。また、Formsを業務に取り入れ、試験調査を試験的に実施しました。

今後もこのような研修の機会があれば、参加させていただきたいと思います。



(3) 第 3 回 FD/SD 研修会「特色のある授業報告」(報告概要)

生涯スポーツ学部 スポーツ教育学科 渡部 峻

私は「競技スポーツコーチング演習Ⅱ」について報告をいたします。本科目は競技の技術指導を行う際の専門的知識やそれらを活用する力を養う講義になっています。私の講義では光学式三次元動作分析装置を用いての野球の動作計測を実施します。計測したデータを元にどのような部分を改善あるいは伸ばすことで、競技パフォーマンスの向上、障害予防につながるかを考えていきます。動作を観察する際の見るべきポイントやそれらを良くしていくためのアプローチの方法を受講者全員で考えていきます。実践的な講義であり、スポーツを科学的に考えられる、指導できる学生をこれからも育成していきたいと思います。

教育文化学部 教育学科 横山 光

大学の講義に学生の主体的な場面を設けることが求められて数年が経過した。しかし、少人数の講義ならばともかく、50 人を超す受講生がいる講義では、そういった場面を設定することは難しい。そこで、Office365 の機能を活用して講義方法の改善に取り組んだ。知識伝達型の講義になりやすい科目では、Forms を用いた小テストやアンケートを取り入れた。また教員養成科目では、グループで模擬授業をする際に Teams で学生同士の意見交換を行った。このことは、学生の主体的な活動場面を増やすだけでなく、講義の改善や評価の場面においても活用することができた。一方、学内ネットワーク環境の一層の整備や使用方法の精選などいくつかの課題も明らかになった。

短期大学部 ライフデザイン学科 平井 伸之

本学科では、舞台芸術(演劇)について 2 年間かけて総合的に学ぶ教育プログラムとして、毎週月曜日に札幌円山キャンパス多目的ホールにおいて研究授業(各学期 3 科目計 12 科目)を展開しています。照明、音響、舞台美術、メイク、特殊効果、俳優の基礎を学び、公演活動や外部連携イベントを通じ実践を重ねることで、「コミュニケーション能力」や「チームとして協働できる能力」を身につけます。

経済産業省が提唱する「社会人基礎力」は「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の 3 つの能力(12 の能力要素)から構成されますが、これらは演劇づくりにおいても必要な「力」です。演劇という素材を使い、体系的なプログラムと実践により、現代社会を生きる力を養います。

短期大学部 こども学科 石田 敏明

令和元年 9 月 28 日(土)、大学祭にて、こども学科主催「こどもの国」が開催された。これは代々受け継がれている学科の取り組みのひとつである。近隣の子どもたちと保護者の皆様に楽しんでもらう遊びの広場の企画と運営で、保育内容演習Ⅰを中心に 1 年生前学期の総合的な学びの場として位置づけられている。3 コースそれぞれの特色を生かし、音楽コースはコンサートを実施、また保育コース・教育コースは子どもの発達過程に合わせ、創意工夫をこらした様々な遊びのコーナーを開設した。当日は 380 名を超える方々が来場し、笑顔のあふれるイベントとなった。どのような授業展開を経て、学生の学びを深めたのかを写真や映像を交えながら紹介する。

***第 3 回 FD/SD 研修会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止いたしました。**

(4) 授業評価中間アンケート(Web 入力)

生涯スポーツ学部 スポーツ教育学科 山本 敬三

今回、初めて授業評価中間アンケートを実施しました。アンケート結果について、授業の最初に触れ、学生達と授業の進め方について、確認することができました。

進捗のスピードや板書方法など、学生視点からの意見を聞くことができ、大変有意義に活用することができました。

また、Web ツールを使うことで、早いフィードバックができたことは、この手法の長所でした。次年度も活用させていただき、学生達の理解度をはかりながら、授業を展開します。

教育文化学部 教育学科 中川 洋一

4 年時科目「教職実践演習」において、中間アンケートを実施しました。内容的には、見学実習や専門性の高い外部講師による講義等も交えての講義内容が概ね好評であり、後半の講義について、同様に、現場に出てすぐに役立つ実践的な内容を中心に講義を組み立てることができました。一つの課題点としては、シラバスとして 15 回の講義内容が決まっているため、中間評価を後半に生かす柔軟対応の在り方を検討する必要性を感じました。内容面での変更は難しいですが、方法論としての活動の活性化には、十分に繋がるものと考えます。

短期大学部 こども学科 荒川 巖

担当科目の授業評価中間アンケートを Microsoft Forms で行った。内容は前・後期に行っている「授業改善アンケート」と同様である。11 月 19 日と 20 日に 2 教科で行った。スマートフォンで QR コードを読み取りブラウザにてアンケート項目に答える形である。アンケートと同じ内容であることやスマートフォンの操作に慣れていることから、QR コードの提示後の説明は全く必要なく、要した時間も 5 分程度であった。11 月 27 日にはアンケートのまとめが紙ベース同様の形で配信された。この形の方が書きやすいのか、記入欄へのコメントが紙ベースの時より多かった。利用する側としてはとてもよいと感じた。

5. 学生 FD 活動

(1) 翔タイム（芸術学科、教育学科、全学科）

*芸術学科 1 年

開催日：4 月 4 日（木）

テーマ「こんな学生生活は嫌だ！」

*教育学科 1 年

開催日：4 月 26 日（金）

テーマ「こんな先生になりたい！こんな先生は嫌だ！」

*全学全学年

開催日：1 月 17 日（金）

テーマ「上下関係って いる？いない？」



学生FD団体 北翔アンビエント



(2) 学生 FD 報告会

開催日：12 月 18 日（水）

内 容：FD について

翔タイム！（芸術学科、教育学科）

学生 FD サミット 2019 春 in 島根県立大学

学生 FD サミット 2019 夏 with 学生 FD 会議

翔タイム！告知（1 年生運営企画）



(3) 学生 FD サミット

1. 学生 FD サミット 2019 夏 with 学生 FD 会議

開催日：8 月 27 日（木）・28 日（金）

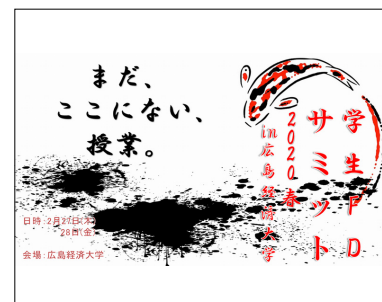
場 所：北翔大学

2. 学生 FD サミット 2020 春（教員 1 名、学生 5 名参加予定）

開催日：3 月 26 日（木）・27 日（金）

場 所：広島経済大学

（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止となりました。）



6. 学生FDサミット 2019 夏 with 学生FD会議

開催日：8月27日(木)・28日(金)

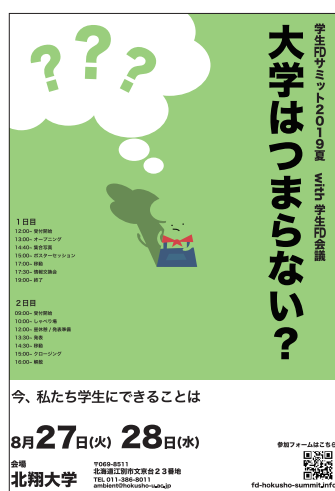
場 所：北翔大学

全国の大学から学生FD活動に取り組む学生・教員・職員が一堂に会し、各大学における学生FD活動の成果を発表し、テーマに沿って学生、教員、職員が議論する場です。

学生FDは、学生が主体的に教育や授業について考え学生視点から改革の動きから教員、職員と三位一体で行うFDと考えたのが発端です。

その学生が中心となり全国の学生、教職員が交流し更なるFDの発展のため学生FDサミットが立ち上がり2009年8月から年に1～2回開催しており、今では50大学以上約500人近く参加しているイベントとなりました。

今回は、東日本地域の大学を中心に加盟しているFDネットワーク”つばさ”事業である学生FD会議と合同で行なわれました。



2019年8月27日(火)・28日(水)

学生FDサミット 2019 夏 with 学生FD会議
北翔大学

教育文化学部 教育学科 2年 竹原 夢

本サミットの中で、特に力を入れたのは「しゃべり場」だと思う。しゃべり場での結論の出し方、進行方法、時間の取り方など計画を立てる中での課題は多々あった。限られた人数で効率よく進めるため、動画を使ったり、各班に任せたりなど、工夫を重ね自分たちの満足のいくものにできた。この企画を通し、仲間と協力しながら一つの事について考え、話し合い、落とし込むという、日常では経験できないことを経験することができた。

教育文化学部 芸術学科 松澤 衛

正直、この話をお受けしたとき本当に成功出来るのだろうか？と不安になりました。サミットを行うなら学生を主人公にしたいと考えていたので、教職員は黒子に徹する。学生に任せて大丈夫なのか？やはり主体は教職員で行った方がいいのでは？と悩みました。しかし、実際に準備が始まるとそんな悩みも吹っ飛び、学生が自分たちで考え、行動し、修正し、実現してくれました。全国から200名を越える学生、教職員が集まるイベントを主催出来る機会はそんなにあるものではありません。中心になった学生に取ってはいい経験になったのではないのでしょうか？

教育支援総合センター FD支援オフィス 千葉 道博

学生FDサミットが終わり、学生の満足した笑顔が見られて良かったです。開催を決めた当初学生の勢いが伝わっていたのですが、時間が経つにつれてその勢いも薄れ開催できるか不安でした。また募集期間が短く、参加者が思うように集まらず、期間を延してから集まり始めホッとしたことを思い出します。全国から多くの学生教職員が集まっていた盛り況だったと思います。このサミットをきっかけに学生たちが主体的に活躍することを期待します。



参加大学・短大一覧



参加 大学・短大

国立 11 校

公立 4 校

私立 31 校

合計 46 校

参加者数：学生 178 名

教員 32 名

職員 17 名

その他 9 名

合計 236 名

7. 委員よりひと言

生涯スポーツ学部 スポーツ教育学科 渡部 峻

私は今年度より、教員として本学に着任いたしました。右も左も分からない中で今回委員をやらせていただき、充実した 1 年となりました。特に印象的だったのは、「Microsoft Teams」の研修会でした。上手に使用すれば、講義の振り返りや学生との情報共有、教員間でのやりとりなど非常に有用なツールであると私自身感じました。さらにこの研修会は非常に学内の教職員にも好評であり、実施してよかったと思っています。

私自身も部活動での 100 名近い部員との情報共有ツールとして使用しています。このように教職員、学生に有益な情報を発信することができよかったと思います。

次年度は、今年度以上に委員として活動できるよう精進してまいります。

生涯スポーツ学部 健康福祉学科 尾形 良子

「学生 FD サミット 2019 夏に参加して」唯一都合がついて参加できた 1 日目のポスターセッションにうかがいました。多数の参加大学のうち二つの大学の学生さんとお話をし、「良い授業を」と願う学生が FD 活動に携わる重要性を改めて認識することができました。

学生は、大学のステークホルダーであり、当事者意識を学生に持たせることの意義を感じました。

学生にとって我々教員の行う授業はとても重要な、ほとんど全てといってもよいような“主力商品”であり、享受する学生にとって授業の成否は死活問題です。

教員として「唯一無二の授業という場」を生かしきるための策を練ろうと心に誓いました。

教育文化学部 教育学科 中川 洋一

今年度の大きなイベントであった「学生 FD サミット」の全国大会を本学で実施できたこと、そして好評を得ることができたことが素晴らしかったと思います。

特に、本学の運営委員の学生数が極端に少ないにもかかわらず、ここまで成功に至ることができたのは、各学生の意識の高さに加え、関係各教員及び職員の皆様の陰での支えがあってこそと感謝しております。学生にとっても自信に繋がったと考えます。

今後とも、本活動の発展を祈念しております。

教育文化学部 心理カウンセリング学科 橋本 菊次郎

2 年間 FD 委員を務めさせていただきました。大学教育も日々、求められるもの、目指すことなど変革が求められていることを FD 委員になり、改めて感じることができました。

本学では特に学生 FD 活動が活発ですが、私個人といたしましては 2019 年 2 月 26 日に FD 活動している学生たちと交流する機会を頂き、学生の FD 活動に対する熱意、また教員・授業への熱い期待を直接聞くことが何より印象的で、刺激を受けました。

今後も、学生 FD とともによりよい大学、授業、FD 活動が活発に継続されることを願っております

短期大学部 こども学科 荒川 巖

12 月 18 日（水）アンビエント報告会に参加した。内容は 7 ページの活動報告の通りである。登壇した学生は各自工夫した表現で堂々と報告を行っていた。

札幌学院大学から参加した学生の質問に対しても的確に答えたり時には柔らかい表現で場を和ませたりするなど、FD 活動を通してコミュニケーションスキルを高めていることを感じた。どの学生からも、学校をよりよく変えるために誰かに何かをしてもらう前に自分ができることをしていこうとする前向きなエネルギーを感じた。

8. 編集後記

教育文化学部 芸術学科 松澤 衛

北翔大学・北翔大学短期大学部の FD 活動報告を、今年度も「活動報告集」として発行いたしました。

本学が FD 活動に取り組み始めて 16 年が経過し、私が FD 支援委員会の委員長になってから丸 9 年が経ちました。

今年度は、Microsoft teams を活用し、授業改善アンケートを希望する先生に中間で行いました。

また、今年度は、学生 FD 組織「北翔アンビエント」が、200 名を超える参加者があった「学生 FD サミット with 学生 FD 会議」を無事に成功させました。

しかし、同時に組織的な FD 活動とは何か？どう展開すれば、大学の教育、大学全体が良くなるのかを考え続けた 1 年でもありました。

投稿くださった教員の皆様に感謝申し上げますと共に、報告集をご覧いただき、学びを共有し合い、更により良い大学作りの為に活用ください。

9. FD 支援委員会

委員長	：教育文化学部	芸術学科	松澤 衛
副委員長	：教育支援総合センター	FD 支援オフィス	吉川 巧
委員	：生涯スポーツ学部	スポーツ教育学科	渡部 竣
	生涯スポーツ学部	健康福祉学科	尾形 良子
	教育文化学部	教育学科	中川 洋一
	教育文化学部	心理カウンセリング学科	橋本 菊次郎
	短期大学部	こども学科	荒川 巖
事務担当	：教育支援総合センター	FD 支援オフィス	田村 友一、千葉 道博

発行日：2020 年 3 月末日

編集・発行：北翔大学・北翔大学短期大学部

FD 支援委員会／FD 支援オフィス

〒069-8511 北海道江別市文京台 23 番地

TEL:011-386-8011(代)

FAX:011-387-6260

URL: <http://www.hokusho-u.ac.jp>

E-mail: fdoffice@hokusho-u.ac.jp

表紙写真撮影：教育文化学部 芸術学科 松澤 衛